

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 多機能事業所 ここあ		
○保護者評価実施期間	2025年 10 月 1 日 ～ 2025 年 11 月 15 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 0名
○従業者評価実施期間	2025 年 10 月 1 日 ～ 2025 年 11 月 15 日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 1 0 名
○事業者向け自己評価表作成日	2025 年 12 月 15 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	重症心身障害児、医療的ケア児が多く通所している事業所であり、利用者それぞれの体調や特性に合わせた安心できる支援を行っていること。また看護職員が常駐しているため、体調の変化に応じた対応が可能であること。	子どもの様子だけではなく、保護者様の思いや学校生活の様子なども聞き取りながら、個人に合った支援内容を考え、個別支援計画を具体的に作成している。 専門職員による個別支援も行い、その子に合った支援を行うよう努めている。 保護者と関係性を作り、少しでも変わったことがある時には連絡・報告してもらい対応している。	重症心身障害児、医療的ケア児は、支援を行うにあたり細やかな配慮が必要なため、研修会等を通して職員全体の知識の習得を行う。 引き続き、学校や他の放課後等デイサービス等の関係機関と連携を取りながら、個別性に合った支援を考えていく。
2	保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っていること。 また、就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っていること。	子どもたちの普段の生活を知るために、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等に訪問、情報共有を行い支援や活動につなげている。 また、就学時には、事業所での取り組みを知ってもらえるように、文章だけではなく、実際に先生と面談したり、写真や動画を使ったりして情報共有を行っている。	引き続き、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等に加えて、自宅での訪問リハビリや療育センター等のリハビリの様子等、多方面からの情報共有を行っていく。
3	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応していること。	日々、子ども・保護者に寄り添いながら支援を行うことで信頼関係を構築し、相談や申入れをしやすいような雰囲気・環境作りをしている。 子ども・保護者より相談や申入れがあった際には、すぐに管理者・児童発達支援管理責任者に報告し、職員間で共有し迅速かつ適切に対応できるようにしている。	引き続き、子ども・保護者に寄り添った支援を行うとともに、何か変わったことがあればこちらからも声をかけるようにしていき、素早く対応できるようにする。また、必要があれば相談支援専門員や他の福祉サービスにつなげていくようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がないこと。	本事業所は、重症心身障害児・医療的ケア児が多く通所しており、体調管理も大切な支援の一つである。その日によって、体調が変化しやすく日々の活動と休息のバランスの調整が必要である。その中で、地域の他の子どもと交流し活動することは難しいことが多く、実施できていない。	保護者のニーズを調査し、日々体調の変化が多い本事業所の子どもたちでも、無理なく地域の子どものと交流できるような取り組みを考えていく。
2	部屋が狭く感じることもある。バギーでの移動が難しいことがある。	バギーや座位保持椅子を使用している子どもが多いため、部屋に入ると狭くなってしまうことがある。バギーで移動の際には動きが取りにくかったり、廊下が狭くて危なかったりする。	子どもの活動によって部屋を分けたり、バギーや椅子を使わない時は収納したりと場所の確保に努めている。また、バギーでの移動の際には周囲の安全に注意し、動きが取れるよう環境を整えてから行うようにする。
3			